

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591200047		
法人名	株式会社ひまわりあくと		
事業所名	グループホームつくし		
所在地	柳井市南町六丁目6-6		
自己評価作成日	令和2年11月19日	評価結果市町受理日	令和3年5月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「つくしんぼ大家族 ころろやすらぐ笑顔の家」を目指し、我が家で暮らしているように、やすらぐことのできるように、活き活きと活動し笑顔がたくさん見られる家になるよう。そして入居者、家族、職員、地域の方、入居者につながるすべての方、みんなを含めた大家族で、ともに支えあって暮らしていけるようにつながりを大切に、一人一人の思いを大切に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の栄養士によるバランスのとれた献立で、三食とも各ユニットごとに食事づくりをしておられ、利用者一人ひとりの状態や体調、好みに合わせられ、その都度、食品交換や刻み食など形態に工夫して提供しておられます。利用者は、米を砥ぐ、野菜の下ごしらえ、味付け、盛り付け、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしておられます。季節の行事食(おせち、節句の寿司、土曜のウナギ、年越しそばなど)、おやつづくり、誕生日の手づくりケーキと誕生日食、シソジュースなどの保存食づくり、弁当を持参しての戸外での食事など、食べることを工夫されて、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。季節の行事、テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌を読む、歌を歌う、習字、ぬり絵、折り紙、パズル、押し花やしおりづくり、体操、風船バレー、ゲーム、フォークダンス、畠の苗植えや水やり、野菜の収穫、食事の準備や後片付け、ウッドデッキのペンキ塗り、掃除、洗濯物干しや洗濯物の収納、入浴後のドライヤーかけ、近隣のごみ拾いなど、利用者一人ひとりのできることを活かされて、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をされて、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修の中で、理念についての話し合いの場を持ち一人一人の思いを抽出し、共有して実践につなげられるよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を事業所内に掲示している。職員は、ミーティング時や内部研修で確認して共有し、理念を理解し、利用者にとって、事業所がやすらぎの場となるよう日々の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員の自治会長、副会長、民生委員、福祉委員と連絡を取り合っているが、コロナ感染予防のため、交流はできていない。	自治会に加入し、回覧板を利用者と職員が一緒に届けていたが、現在は中止している。新型コロナの影響で地域の行事が中止となり、ボランティアの来訪も断っており、以前の様に利用者と地域の人が交流する機会がなくなっているが、郵便局のポストへハガキを投函しに行った時や近くの公園を散歩する時に出会った人と挨拶を交わしたり、地元の高校生に写真を撮ってもらうこともある。近所の人から、桜の木、野菜の苗、季節の野菜、花の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところできていない。運営推進会議にて地域の介護事業所として地域に役立つことがないか投げかけている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	内部研修で自己評価・外部評価を実践する意義を話し合っている。評価を受ければこそ問題点を明確にでき、前向きに改善できる努力をしている。	評価の意義について、管理者やリーダーがユニット毎のミーティングで職員に説明している。ガイド集と自己評価の書類を職員全員に配布し、記入したものを管理者とリーダーがまとめている。評価を通して、職員それぞれが業務の振り返りを行い、利用者一人ひとりの思いを大切に日々のケアにあたるなど、改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中で、運営推進会議が文書によるものとなっているが、返信用封筒により意見を頂いている。意見をサービス向上に活かせるようにしている。	会議は年6回開催し(内5回は書類送付のみ)、利用者の状況や生活状況、行事予定、事故報告を文書で行い、メンバーからは意見や要望、助言をアンケートで収集している。感染症対策に関する意見からは、面会制限による事業所の対応として、ライン動画を利用したテレビ電話での面会、ひ孫からの動画で家族との絆を図るなどの意見があり、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が運営推進会議(文章によるもの)に参加している。その他にも電話や訪問等で相談を行っている。	市担当者とは、運営推進会議の他、書類更新時等に直接出向いたり、電話での相談、FAXやメールで情報交換を行い協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、入居の相談や行事への参加時に情報交換をしているなど、関係を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回身体拘束対策委員会(文書によるもの)を開催している。内部研修で全職員が身体拘束について正しい理解ができるようにし、サービスの向上に努めている。	職員は、内部研修で学び、身体拘束について理解して、抑制や拘束のないケアに努めている。運営推進会議時に「身体拘束適正化委員会」を同時に開催している。スピーチロックについては、気になる言動があれば、管理者かリーダーが助言指導している。玄関はオートロックになっているが、利用者が外に出たい時は一緒に散歩をしたり、中庭に出て気分転換をするなど、閉塞感を持たないよう支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて定期的に虐待について職員全員で学んでいる。特にスピーチロックについて話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を受けている入居者がおり、関係者と話し合いながら適切な支援ができています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は十分な時間を取りしっかり説明を行っており、家族等の質問にも応じている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に投書箱を置き、運営推進委員会(文書によるもの)でも家族の苦情や要望をきいている。又苦情や相談を気軽に言っただけの関係作りを心がけている。	苦情や相談の受付体制を明示し、処理手続きを定めて、契約時に利用者や家族に説明している。家族には、面会時や運営推進会議出席時、手紙や電話で意見や要望を聞いている。玄関に投書箱を設置している。事業所だよりに利用者の写真を載せて本人の様子を報告している。これまで、入浴の回数の希望などケアに関する要望は出ているが、運営に反映させる意見や要望は出ていない。家族の意見や要望は「苦情受付簿」に記録し、職員は共有している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会をもうけている。	月1回のミーティングや日々の申し送り時に意見や要望を聞く機会を設けている他、管理者やリーダーが日常業務の中で随時聞いており、要望があれば、個人面談を実施している。職員は、職員連絡ノートで情報共有している。ソファや車いすの購入、業務の見直し、出勤時間の変更など、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対する目配りをし、努力している姿には言葉として賞賛を伝えている。何事も現場職員の発案、企画、実行を尊重し、やりがいを持てるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部の研修に参加できていない。内部研修を月1回行い、職員の資質向上に努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、参加の機会を提供している。看護師が新型コロナウイルス感染症対策研修に参加し、内部研修で復命している。内部研修は、状況に応じて、管理者やリーダー、看護師を講師として月1回ユニット毎に開催し、虐待、不適切なケアへの対応、身体拘束、認知症介護、新型コロナウイルス感染症対策、応急手当や初期対応の訓練を実施している。新人研修は、接遇の基本や医療について学んだ後、マンツーマンで管理者やリーダー、先輩職員の指導を受け、働きながら学べるよう支援している。資格取得の支援として研修受講費の負担がある。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柳井市介護保険事業所連絡協議会、ケアマネ連絡協議会に入会している。コロナ禍において十分な交流ができていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただき、本人とお話ができるようにして、不安が早く解消できて、本人の思いや、要望が聞けるように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の相談・説明は十分に時間をかけ行っており、家族等の不安なこと、要望等に耳を傾けるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする支援をよく把握し、情報提供を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の持っている力を十分に発揮できるよう、一緒に色々なことを行うように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念の「つくしんぼ大家族・・・」の「大家族」には、入居者全員、職員全員のみならず、入居者につながる家族も含めており、家族との絆を大切にしよう支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の医院に通ったり、なじみの場所に行けるよう支援している。	新型コロナの影響で面会を制限しているが、家族の面会や親戚の人、近所の知人の来訪があり、ウッドデッキや距離をとっての面会や、家族がひ孫の動画を持参したり、SNS動画での面会を実施している。電話や手紙、年賀状、暑中見舞いでの交流も増えており、本人の手書きと一緒に職員がイラストを描いたハガキで近況報告をしている。自宅付近へのドライブにでかけている他、家族の協力を得て受診に併せた外出など、これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席等に配慮しながら、できるだけホールでみんなと一緒に過ごし、レクリエーションや共同で作業したりできるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先、入所先を訪問したり、家族と連絡をとりあったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の要望を聞き、ケアプランを作成している。日々の生活の中から意見・要望を聞けるように努めている。	入居時の事業所独自のアセスメント表を活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や行動を「気づきノート」や「生活記録」に記録して、思いや意向の把握に努めている。前回の評価を受けて、利用者の思いや意向がわかる話し言葉を大切にされた記録方法の改善にも取り組んでいる。把握が困難な場合は、家族から聞き取り職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の面談時、時間をかけ聞いている。又日々の生活の中の言動や行動と、ご家族からの聞き取り等で把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中の言動・行動から状態の把握に努めるとともに、記録等も参考にしながら状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、カンファレンスにて職員全員で情報交換、検討しそれぞれの意見を反映し作成している。	計画作成担当を中心に月1回のカンファレンスを行い、利用者の思いや家族の意向、医師や看護師の意見を参考に、職員間で話し合い介護計画を作成している。3か月ごとにモニタリングを実施し見直しを行っている他、6ヶ月毎にアセスメントを更新している。利用者の状態に変化があるときはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録と、業務日誌に日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を記入し、情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズにこたえられるよう、個別に買い物、野菜作り等行えるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、隣の保育園との直接の交流は行っていないが、窓越しに子供の遊ぶ姿を見たり贈り物したりしている。又、自分が書いた手紙は郵便局のポストに投函することはできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿い、主治医と連携を図りながら適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。それぞれのかかりつけ医から月1回程度の訪問診療がある他、定期的な通院を支援している。コロナ禍でもあり、定期受診や他科受診は事業所が支援している。受診結果は、電話で家族に報告している。歯科受診は、希望があれば訪問診療がある。受診状況は、医療記録に記入し職員間で共有している。日常の健康管理は、法人の看護師が週1回行っている。緊急時や夜間の対応は、管理者やリーダーを中心に医療機関と連携して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師連絡帳の活用や、直接の相談にて、入居者の状態を伝え適切に受診や看護を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書等で情報を提供している。主治医・本人・家族と連携を取りながら、可能な限り退院時の受け入れができるよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為が必要となった場合には、ホームでの対応が困難なため、医療機関に入院することが多い。	「利用者重度化対応の指針」に基づき、事業所ができる対応について、契約時に家族へ説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、利用者の状況に応じて、早い段階から医師や看護師の意見を聞いて家族と話し合い、医療機関への入院や他施設への移設も含めて方針を決め、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故対応のマニュアルがあり、事故報告書を提出し、今後の対応をみんなで検討し、再発防止に取り組んでいる。急変や事故対応の訓練も、全員で定期的に行っている。	事例が生じた場合は、「事故発生時・急病時対応マニュアル」に基づき、その日の職員が、状況や対応、経過、今後の対応を「ヒヤリハット報告」「アクシデントレポート」に記録して回覧し、職員間で共有している。気になるケースは、職員間で申し送り時に話し合い、再発防止に努めている。緊急の対応については、内部研修の中で、法人看護師による指導で、転倒、誤嚥、意識を失った時の対応などについて学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。今年度はコロナ禍の為地域住民を交えての訓練は行っていない。内部研修では災害時の対応を確認している。	年2回、昼夜間を想定した消防訓練を実施し、通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火訓練を実施している。緊急時の連絡網に地域住民5名が加入しているが、コロナ禍の影響もあり、今回の訓練では地域からの参加がなかった。内部研修で、新聞の掲載記事を活用して自然災害時における避難訓練を実施している。非常時に備えて、避難用持ち出しバッグや福祉用具の準備をしている。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩だということを念頭におき、自尊心に配慮した言葉かけや対応ができるように心がけている。	職員は、内部研修で学び、利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。気になる対応があれば管理者やリーダーが指導する他、内部研修の中で話し合っている。職員は、個人記録の取り扱いに留意し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある声掛けを心がけ、自己決定ができる場面づくりを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を尊重し、入居者一人一人のペースに合わせた過ごし方を心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝お化粧を日課にしている方が数名いる。できるだけ本人の能力にあった身だしなみを続けられるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理では職員と一緒に食材を切ったり味見や盛り付けをして頂いている。コロナ禍の為、職員が同席での食事は控えている。	食事は法人栄養士によるバランスの取れた献立で、三食とも事業所で、ユニット毎につくっている。利用者一人ひとりの状態や体調、好みに合わせて、その都度、食品交換や刻みなど形態を工夫している。利用者は、米をとぐ、野菜の下ごしらえ(食材を切る、皮をむく、ごぼうのさがき、大根おろしなど)、味付け、盛り付け、箸を並べる、お茶くみ、テーブル拭き、下膳、食器洗い、盆拭き、食前食後のあいさつなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ食事を摂っているが、コロナ禍でテーブルは別になっている。季節の行事食(おせち、雑煮、七草粥、節句の寿司、土用のウナギ、ハロウインのバイキング、年越しそば)、夏まつりの焼きそばやかき氷、クリスマスのケーキ、誕生日の手づくりケーキと誕生日食、おやつづくり(桜餅、たこ焼き、牛乳かん、ホットケーキ、プリン、ゼリー、ぜんざい、甘酒、白玉団子、きなこ団子、羊羹、蒸しパン、バウンドケーキ、芋ケーキ、ヨーグルトケーキ、りんごのコンポート)、シソジュースなどの保存食づくり、弁当を持参しての戸外食など、食べることの楽しさを支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てており、栄養のバランスが取れたものとなっている。苦手な食材がある時は、違うものを提供したり、本人の体調や状態に合わせて食事の時間にも配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。本人の能力に応じて、就寝前や起床時も口腔ケアの支援を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄リズムをつかみ、リハビリパンツから、失禁パンツ、布パンツに移行できた。尿意の訴えがない方でも、排泄のパターンを把握し、トイレ誘導している。	排泄管理表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、水分摂取や食物繊維の多いものの提供、運動をこころがけ、主治医と連携を図っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はほとんど毎日行っている。本人の希望に合わせて日中対応している。	入浴は、毎日10時から12時までと13時30分から14時30分までの間可能で、利用者の希望に沿ってゆっくりと、週3回は入浴できるように支援している。利用者の状態によって、清拭、足浴、シャワー浴で対応している。入浴を楽しむために、入浴剤やゆず湯などを利用している。入浴したくない人には、時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっておらず、一人ひとりの生活習慣に合わせて入眠を促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が把握できるよう、それぞれの薬の説明もファイリングしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし、それぞれの生活歴を把握し、趣味や役割が行えるように支援している。	季節の行事(書初め、豆まき、ひな祭り、七夕、夏祭り、敬老会、ハロウィン、クリスマス)、誕生会、テレビ(朝ドラ、相撲、バラエティ、動物もの、プロレス)やDVD(寅さん、昔の映画)の視聴、新聞や雑誌を読む、歌を歌う、習字、ぬり絵、貼り絵、折り紙、パズル、しりとり、間違い探し、なぞなぞ、トランプ、押し花、しおりづくり、ぼんぼんづくり、梅干し体操、嚙下体操、バタカラ体操、棒体操、季節の壁画づくり、風船バレー、魚釣りゲーム、ボーリング、花笠踊り、フォークダンス、食事の準備や後片付け、おやつづくり、お茶の袋詰め、モップかけ、掃除機かけ、テーブル拭き、手すり拭き、窓ふき、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物収納、シーツ交換、枕カバー交換、布団干し、障子の張替、雑巾縫い、新聞紙のごみ箱づくり、ボタン付け、花を生ける、花瓶の水やり、畑の苗植えや水やり、野菜の収穫(ネギ、ミニトマト、ブロッコリー、大根、きゅうり、オクラ、しそ)、ウッドデッキのペンキ塗り、新聞の取り込み、カレンダーの日めくり、近隣のごみ拾い、元美容師による散髪、入浴後のドライヤーかけなど、利用者一人ひとりの力を活かし、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を楽しめる外出を全員で行ったり、個別で買い物に行ったり、ホーム周辺の散歩をしたり、ドライブに行くことで気分転換を図れている。本人の喜ばれる場所を職員が考え外出できている。	周辺の散歩、季節の花見(桜、紫陽花、つつじ、秋桜)、ドライブ(自宅周辺、海)、ディスカウントスーパーへの買物、近所の畑の野菜見物、近くの川の鯉の餌やり、ウッドデッキでの外気浴や日光浴、ウッドデッキでのお茶とおやつ、ゴミ出し、通院、古墳見学、市役所への書類提出など、日常的に外出の支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診時の支払いや買い物時の支払いを、できるだけ本人が支払うように対応している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人とのつながりが保てるよう、電話、手紙、テレビ電話のやり取りを大切に支援している。家族持参のひ孫のDVDをいつでも見れるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に快適な室温で暮らせるよう温度と湿度に気を配っている。玄関や居室、トイレ等にトルペイントを飾り、温かみのある空間を作っている。又入居者と共同作業で季節の飾りつけを行っている。	玄関には季節の花を飾り、共用空間は、明るく広々としていて清潔感がある。対面式のキッチンからは調理の様子、音や匂いがして生活感がある。利用者がすごしやすいように、テーブルやイス、テレビ、ソファを配置し、テーブルには、利用者が生けた花が飾ってある。壁面には、利用者の作品(習字、ぬり絵、貼り絵)や利用者と職員がつくった季節の作品を飾り、季節感を感じることができる。加湿機能付き空気清浄機を設置し、温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファー、食卓、テレビがあり、リラックスできるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を持ち込むことができ、畳、障子等により、落ち着ける空間が確保できている。	テーブル、イス、机、座イス、籐ダンス、テレビ、ラジオ、時計、加湿器、化粧道具、仏具(遺影、過去帳)、新聞、雑誌、アルバム、人形、小物入れ、ぬいぐるみなど、これまで使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁面には利用者の作品(ぬり絵、折紙、押し花、習字)や家族の写真、誕生日の色紙、メダルを飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計になっており、廊下・居室入り口などに手すりを設置している。歩行器、シルバーカーがすべての場所で使用でき、安全で自立した生活ができるようにしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームつくし

作成日: 令和 3 年 5 月 15 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当 や初期対応の定期的訓練の継続	・事故防止の取り組みとして、小さなことでも ヒヤリハットに記録する。 ・少人数での訓練の回数を増やすことで実 践力を身につける。	・ヒヤリハット報告の様式を変えて、原因と問題 点をしっかり考えられるようになり、事故防止で きるようになる。 ・看護師・リーダーによる少人数での訓練を実 施し、急変時の対応を身につける。	12ヶ月
2	36	地域との協力体制の構築	・運営推進会議以外でも、地域と交流・情報 交換することで、火災、災害時の協力体制を 構築していく。	・新型コロナ流行のため、書面・電話での情報 交換を主として行っていく。流行が落ち着けば 積極的に取り組んでいく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。